KAO
北本らしい“顔”の駅前つくりプロジェクト本
KAO PROJECT 2008-2011

北本らしい“顔”の駅前つくりプロジェクト本

KAOPROJECT2008-2011

北本らしい“顔”の駅前つくり実行委員会

これは北本らしい“顔”の
駅前つくりプロジェクトを紹介する
ガイドブックです。

第1部ではまちの顔となる
北本駅西口駅前広場（以下：西口広場）の改修計画の概要を、
第2部ではその顔を計画するために
調べたまちの体（交通、商業、光、緑、ひと）を、
第3部ではプロジェクトで制作した
ウォーキングマップを紹介します。

Contents［目次］

Section

まちの顔計画 | 西口広場改修計画

06 はじめに
14 西口広場改修計画のコンセプト
18 西口広場改修計画平面図
20 まちのインデックスとなる広場

Section 2

まちの体調査 | 北本のまちの特徴を調べる

32 交通調査
38 商業調査
46 光調査
52 緑調査
60 ユニバーサルデザイン調査
64 ひと調査
82 まちづくりツール

Section 3

北本ウォーキングマップ | 西口広場のサイン

86 北本ウォーキングマップ
94 北本ウォーキングマップサイン
95 西口広場のサイン

96 クレジット

Section 1

第 1 部

まちの顔計画

西口広場改修計画

14 西口広場改修計画のコンセプト
18 西口広場改修計画平面図
20 まちのインデックスとなる広場

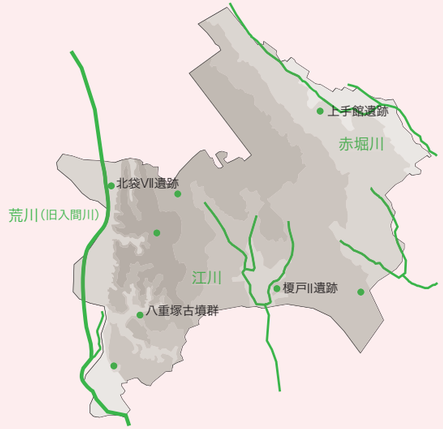
はじめに——1

北 本 の ま ち

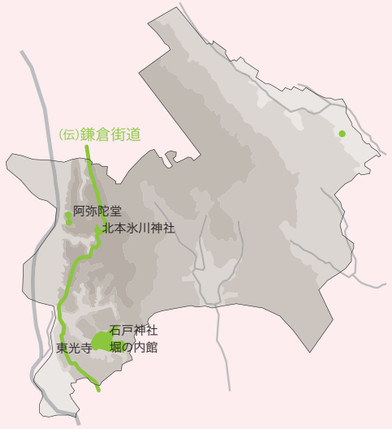
人口約7万人の北本市は、新宿から湘南新宿ラインで45分の距離、埼玉県の中央に位置する市です。この地に人が住み始めたのは縄文時代。江戸時代には中山道が通り、間の宿として発展しました。明治になると高崎線が開通、昭和3年に北本宿駅(現在の北本駅)が誕生しました。昭和46年11月には人口3万4千人の北本市制が始まりました。

[注] 川や街道の位置は、現在の地図情報を用いています。

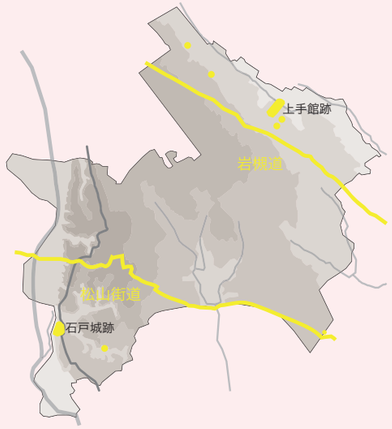
縄文–古墳時代
荒川(旧入間川)・赤堀川・江川の流域や大宮台地には、
住居や古墳がつくられました。



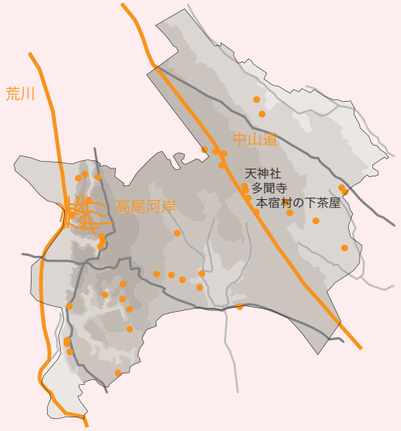
鎌倉時代
荒川沿いの集落や神社をつなぐように、
(伝)鎌倉街道が整備されました。



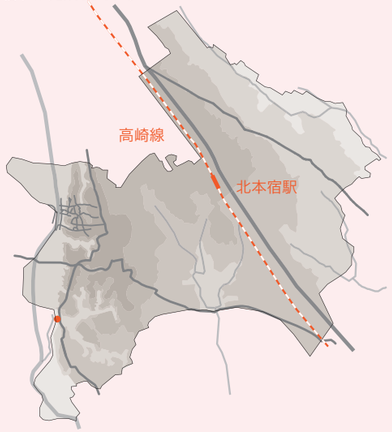
室町時代
松山街道、岩槻街道が通り、城の中継点として、
寺院や支城がつくられました。



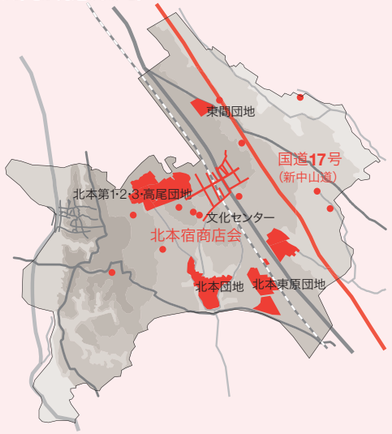
江戸時代
中山道と荒川水運が整備され、本宿と高尾河岸周辺は、
旅籠屋、茶屋、問屋などでにぎわいました。



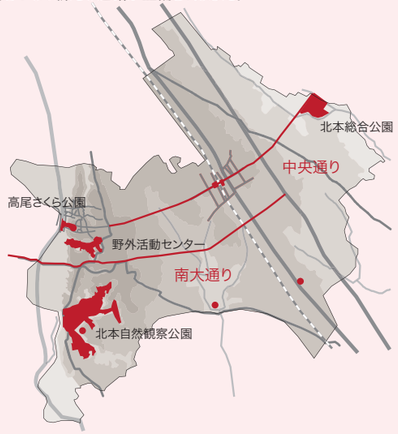
明治–昭和(戦前)
高崎線が開通し、水運は衰退しました。
昭和3年に北本宿駅が完成しました。



昭和(戦後)
北本団地や国道17号、北本駅西口の整備により、
駅を中心とした市街地が発達しました。



平成
緑地公園の整備が行われ、
北本の東西をつなぐ新たな道路が整備されました。



はじめに——2

西口広場の誕生から現在

かつて、北本駅の入口は東だけで、西には田畑が広がっていました（写真1）。市の西側の人口増加に伴い、昭和50年に橋と西口広場が誕生しました（写真2）。広場周辺には建物はわずかにあるだけで、橋のたもとに人がたまるようなスペースがありました（写真左上）。昭和52年には駅舎が橋上に完成しました（写真3）。平成14年には、市政サービスや店舗の入った駅ビルができました（写真4）。その一方で、広場は小さくなり、ビルと広場の間には、広場の勾配から段差ができました。また、広場が非対称の形になっていること、駅ビルが南よりにあることなども、こうした歴史によることがわかります。

昭和50年頃
北本駅西口

写真1
昭和36年
北本駅前周辺

写真2
昭和50年
北本駅前広場

平成23年
北本駅西口

写真3
昭和55年
北本駅前広場

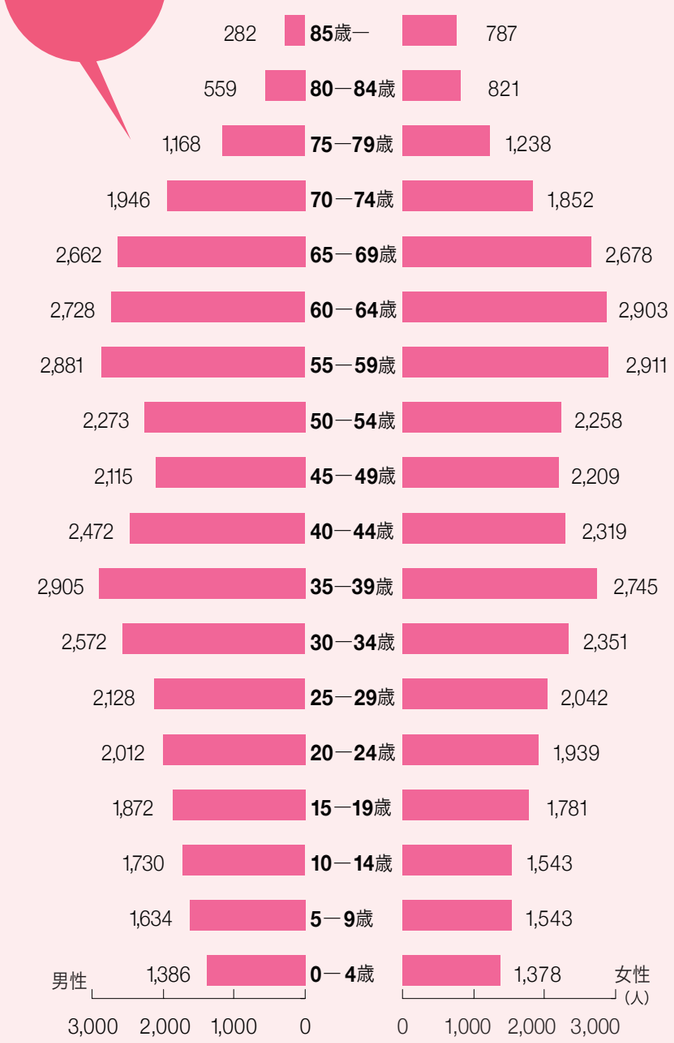
写真4
平成23年
北本駅前広場

はじめに——3

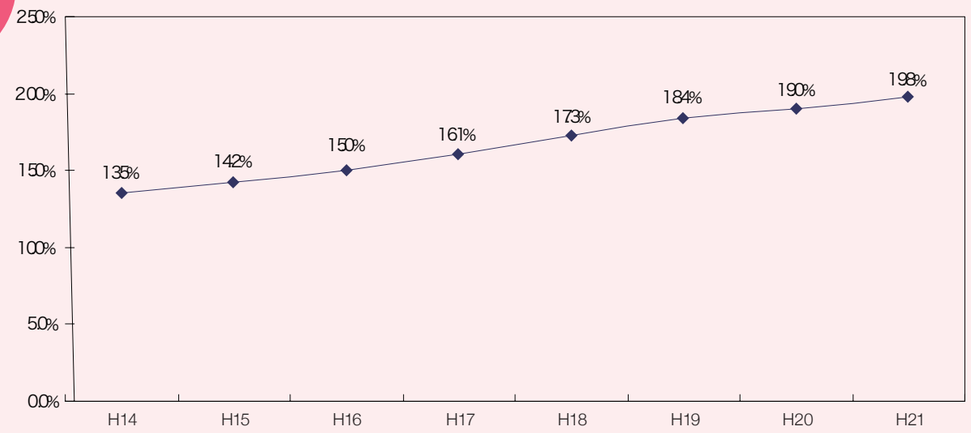
変化してきた北本のまち

西口広場の誕生時と37年を経た現在では、まちも大きく変化してきました。人口は倍に増加し、市街地が増えた一方で、田畑や雑木林は減少しました。30年前、北本に転入した東京周辺の企業に通勤するサラリーマン世代は、高齢者世代になろうとしています。人口バランスが崩れ始めた今、持続的なまちにとって、人々の生活をささえる地域のつながりをつくることは大きな課題といえるでしょう。

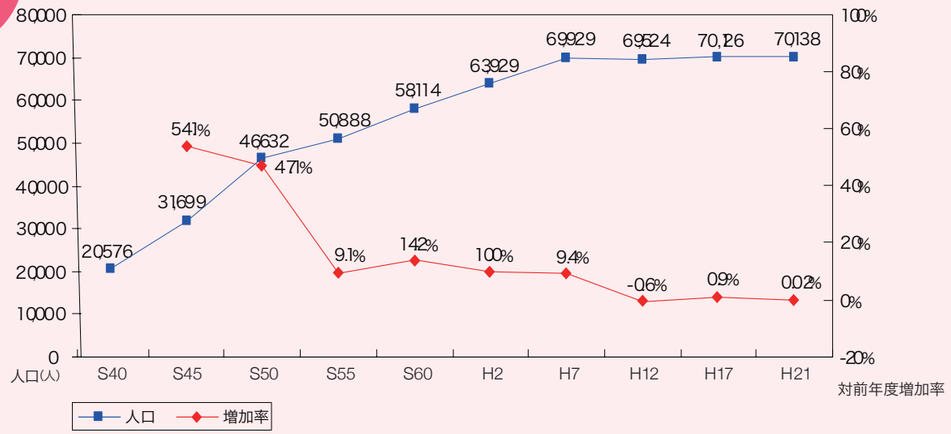
5歳階級別人口構造ピラミッド



高齢化率の推移



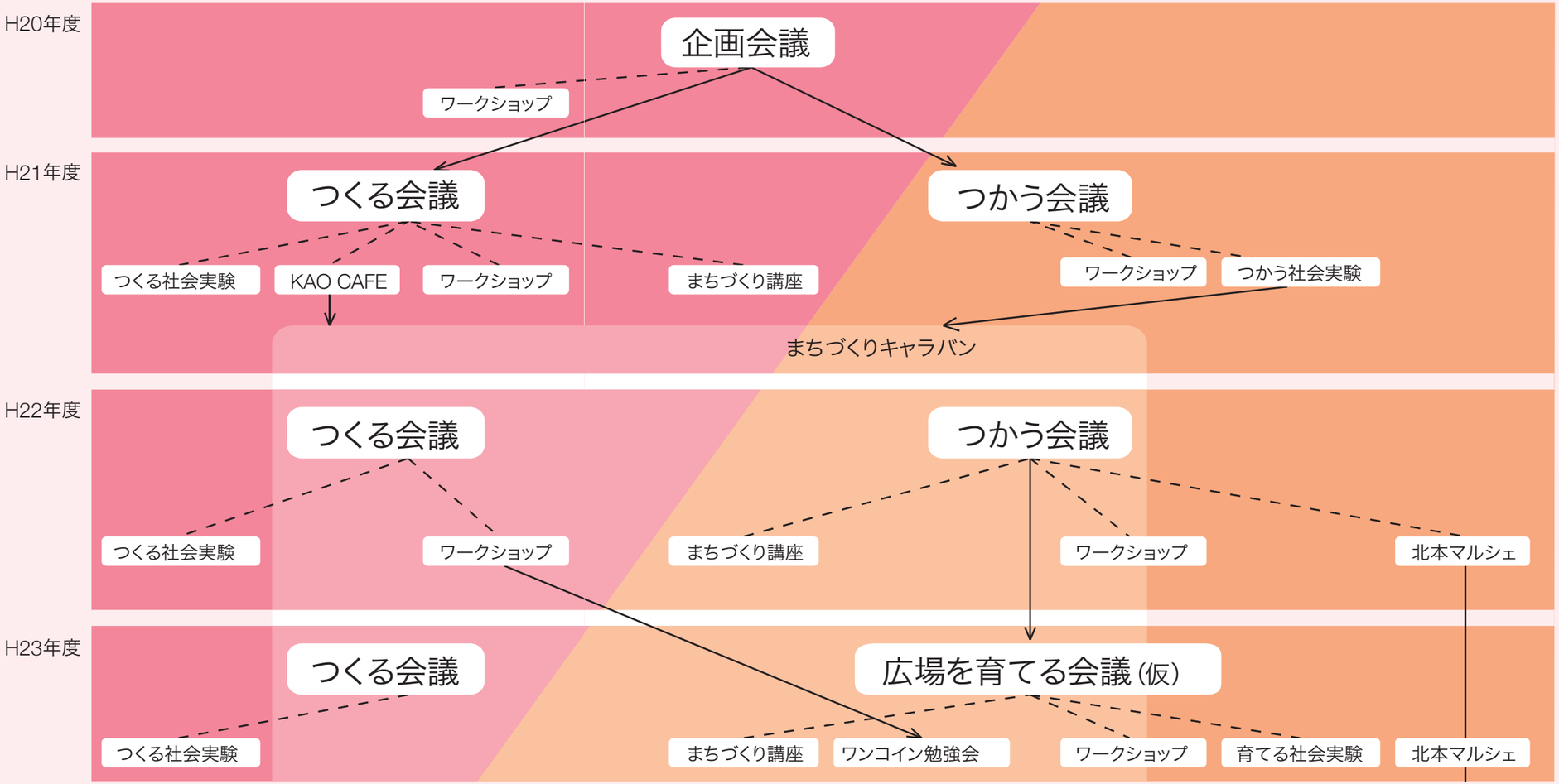
北本市の人口動向



はじめに——**4**

北本らしい“顔”の駅前つくりプロジェクト

このような背景から、北本らしい“顔”の駅前つくりプロジェクト(以下:顔プロ)がはじまりました。地域資源や人材を掘り起こして、誰もがいきいきと集うような広場を考えながら、市民の皆さんと行政がいっしょに考えていくきっかけや、仕組みを考えようとしています。



プロジェクトメンバーは、筑波大学、東京工業大学、北本市(都市計画課、道路課、政策推進課、産業振興課、生涯学習課)、埼玉県の官学連携チームです。建築設計、都市計画、ランドスケープデザイン、プロダクトデザイン、照明デザイン、栄養学の専門家や、多くの大学生、大学院生が参加し、会議やワークショップ、社会実験を市と協働ですすめています。

3年の間にはプロジェクトの進行に合わせて、委員会の形も変わってきました。平成20年度は改修計画案を考える[企画会議]と市民の皆さんとの話し合いとなる[ワークショップ]。平成21年度には企画会議は[つくる会議]に、ワークショップは[つかう会議]とすることで、ハードとソフトが対等な形になるようにしました。平成22年度は、それまで学識者や専門家が講師を務めていたまちづくり講座に、市民団体を講師として招いて、互いに学び合い、教え合うかたちとし、それをもとに「つかう会議」で広場の使い方の企画書を作成しました。年度末には総括として、そうした市民団体の代表が一同に会した「スーパーつかう会議」を開きました。平成23年度はこの会議を、大学をモデレーターとして、市民と市役所の「広場を育てる会議」として進めて行く予定です。

西口広場改修計画のコンセプト——1

顔は体を表す

駅は地域の人々の送り迎えの場であり、外から来る人々をもてなすまちの玄関口です。「ほっとする」「ふるさとと感じる」「地域の顔となる」駅前広場とはどんなものでしょうか。人の顔もその人の振る舞いや体を表しているように、まちの顔をまち全体としての体の調査から考えることにしました。

西口広場改修計画のコンセプト——2

顔としての植栽帯：北本おやじ

現在でも北本には武蔵野ではめずらしく平地林が多く残っており、高崎線沿いにも、公園として残されています。
こうした特徴を積極的に捉えてまちの顔にすること。かつて雑木林が農家の生活と結びついてその美しい風景を作り出してきたように、ロータリーの中心となる植栽帯に、雑木林の根株を移植して、みんなで育てるアイデアがうまれました。

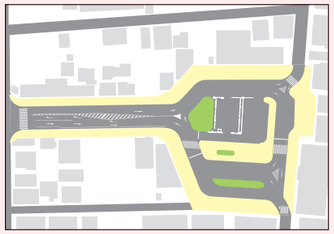
西口広場改修計画のコンセプト——**3,4**

東京時間から北本時間へ

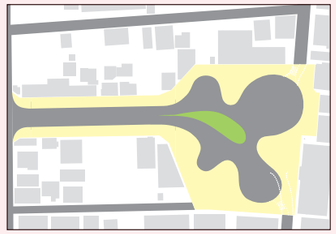
人口の約1/3が利用する北本駅の西口広場は、朝夕の通勤時には混雑しますが、それ以外は閑散としています。今後まちが超高齢社会を迎えたとき、駅の使いかたも変わってくるでしょう。東京時間で慌ただしく通り過ぎるのではなく、そこでまちでの情報を得たり、人々と交流したり。自然豊かな北本ならではの時間で、人を迎える、ゆったりとした西口広場に生まれ変わることが求められているのではないでしょうか。

交通から交流へ »

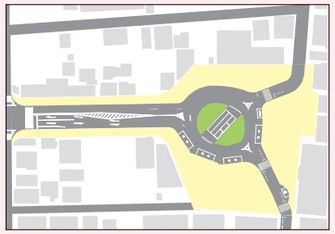
北本の顔となる駅前広場について、車道と歩道のバランスを考え直しました。バス、タクシー、一般車の乗降スペースを集約しつつ、人々が集う場所をどのように確保するかがテーマです。車道と歩道の接する長さを考えた花びら案やバスが回転できるのに十分な大きさを確保してコンパクトにする案、西口広場への進入路や、駐車場やタクシープールの有無などの可能性を議論しました。



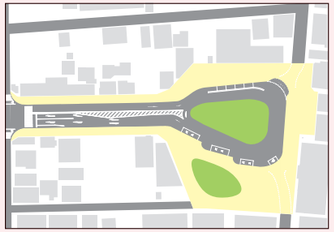
現在の広場



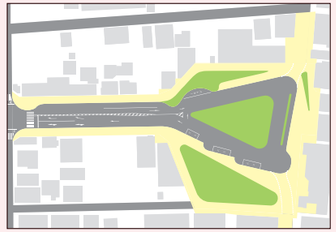
バス、タクシー、一般車で分けた
桜の花びら型ロータリー（平成**20**年**10**月）



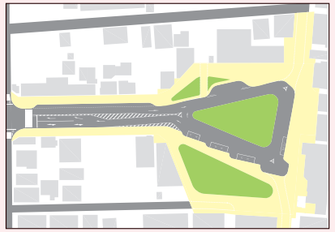
コンパクトなロータリーの歩道を最大限とる
（平成**21**年**1**月）



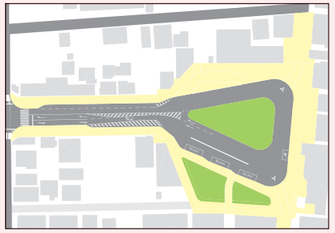
三角形のロータリーの南側にバス停留所、
中央に植栽帯を設け、
南北の取り付き道路を取りやめ（平成**21**年**2**月）



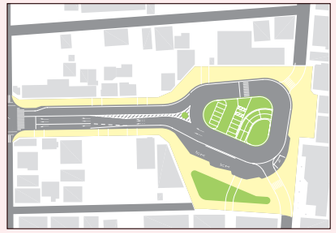
三角形のロータリーを大きくすることで、
車道と歩道の接する長さを大きくする
（平成**21**年**4**月）



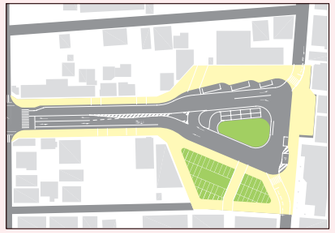
西側道路を延長して設けられた民地への接道、
北側に設けられたタクシープール（平成**21**年**5**月）



多目的広場に設けられた民地への接道
（平成**21**年**7**月）

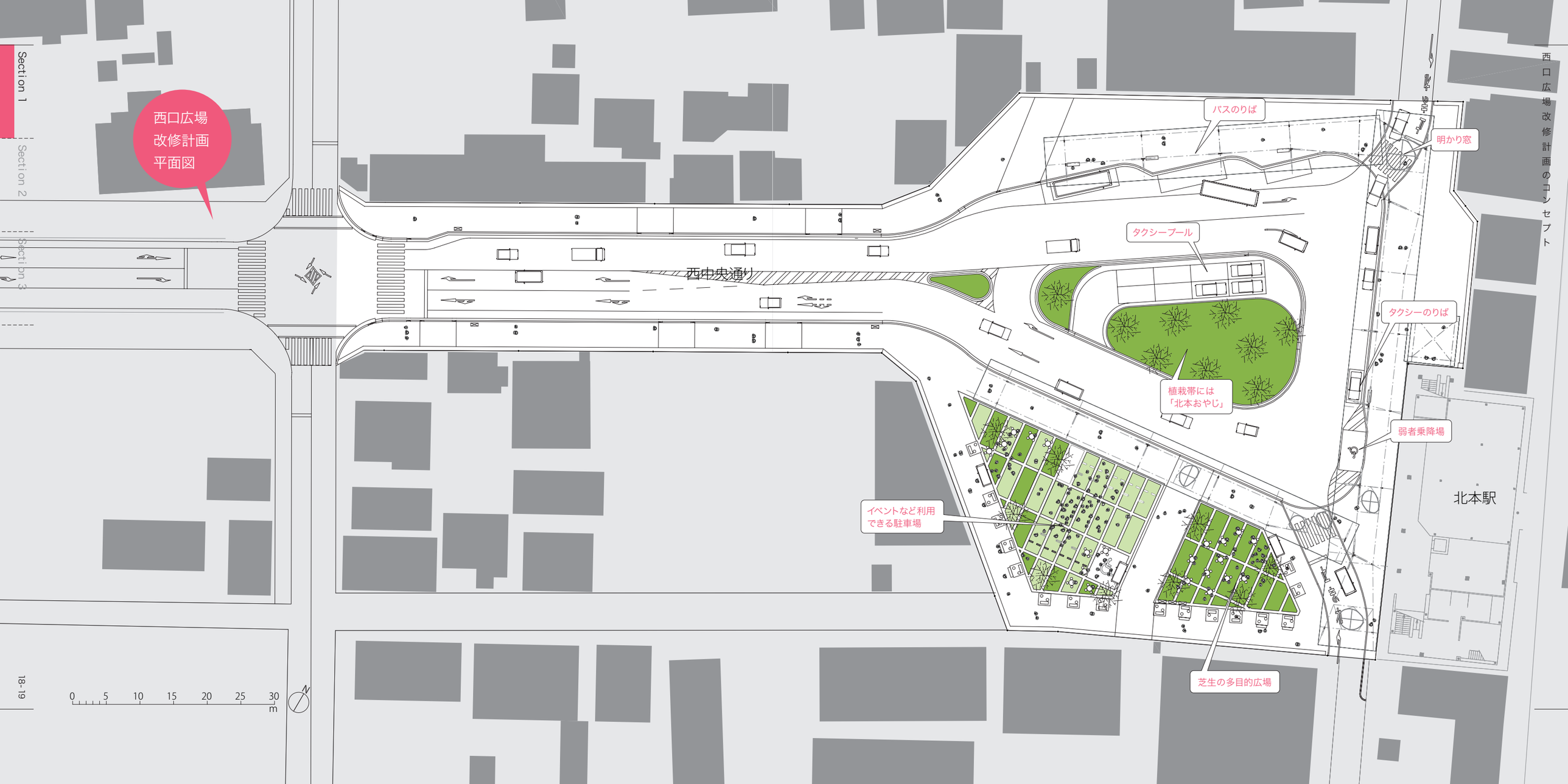


ロータリー中央のタクシープールと駐車場
（平成**22**年**8**月）



ロータリーの北側にバス停留所、
多目的広場の一部に駐車場（平成**22**年**11**月）

：植栽　：歩道　：道路　：建物


西口広場
改修計画
平面図
Section 1
Section 2
Section 3
西中央通り
バスのりば
明かり窓
タクシープール
タクシーのりば
植栽帯には
「北本おやじ」
弱者乗降場
北本駅
イベントなど利用
できる駐車場
芝生の多目的広場
0 5 10 15 20 25 30
m
N

西口広場改修計画のコンセプト——5

まちの インデックスと なる広場

その結果誕生した多目的広場には、まちの情報を提供するキオスクやカフェが現れ、平日はショッピングや送り迎えの人々の待ち合わせの場所となるでしょう。週末は市民団体などによるイベントが開かれます。広場は、四季を通して、このまちの活動をみることができるインデックスの働きをするのです。

西口広場改修計画のコンセプト——6

ひとびとを迎え、送る3つの屋根

ロータリーに接する3辺の歩道は、長く大きな屋根でそれぞれ覆われています。屋根は雨よけになるとともに、商店街へのゲートにもなっています。天井は暖かみのある木の板張りで、交差点近くにはアクセントの明かり窓があいています。柱は株立ちの樹木のように、これらの屋根を支えています。

空から見た西口広場の風景(昼)

駅ビルを
降りてきたところ
植栽帯が
正面にみえる
BUS
BUS
バスのりば
TAXI
タクシーのりば

タクシー、
弱者乗降場

駅ビルを降りてきたところ
左に多目的広場、
右手にロータリーがみえる
BUS
BUS
バスのりば
TAXI

バス乗り場
1